

Ⅲ.障がい福祉サービス事業所 わかば第2作業所(就労移行・就労継続支援B型)

1. 事業内容

就労移行支援 定員6名 現員0名

就労継続支援B型 定員24名 3月末の現員26名(28年3月からは25名…(送迎・昼食を希望により提供あり))

平成26年度に行われた法改正等により、就労移行支援事業は過去4年間、半年以上の就労定着実績が無い場合、報酬を50%減の減算が行われるようになった。平成27年度は、わかば第2作業所もそれに該当したため、26年度末に特別支援学校を卒業し新しく利用を始めた人には、3月中にアセスメントを行い、4月からは就労継続支援B型で受け入れるようにし、対策を行った。そのため27年度は就労移行事業の利用が0名だった。

また、就労継続支援B型では、利用者の定員変更をして2年目で、27年度は定員24名に対して、利用者数が約26名で一年間通しての利用があった。(年間を通しての利用率は24.8人)また、3月に1名の利用者が一般就労し、現在も継続して働いている。

現在の定員で最大125%まで(30名)の受け入れは可能だが、利用者の工賃の問題や数名を受け入れた場合のスタッフ体制、給食の提供等に課題がある。

2. 職員体制

管理者1名(兼務) サービス管理責任者1名

(就労移行)

就労支援員 1名、職業指導員 1名、生活支援員 1名

(就労継続支援B型)

職業支援員 1名、生活支援員 3名、目標工賃達成指導員 1名

3. 作業の内容と実績(実績は別紙参照)

【作業支援】

○内職…(株)ハタダさんの箱折り内職 (有)アサヒ加工さんの紙製品内職 アルミ缶の回収・売却(松本アルミさん) (株)中萩電機さん油処理袋内職

○焼き菓子製造・販売…クッキー・パウンドケーキ・マドレーヌの製造・販売

・本年度は、お菓子の製造量を決め(月に30万円分のお菓子を作る)、出来たお菓子を販売するグループを作り、積極的に販売を進めていくことで工賃のアップを目指した。

・全体の売り上げは前年度に比べて100万円以上増になったが、光熱費や材料費の高騰、事業所収入や負担を考え、一定の光熱費等を授産の売り上げから持たせたこと等で、大きな工賃アップは繋がらなかった。

・内職のグループは、3つのグループに分け本人の特性や状況を考えて支援や環境の整備(落ち着いて作業が出来る内容・作業の組み合わせ・人数など)を行い、メンバー本人の力を発揮できる事を大切に支援を進めていった。作業に慣れてくるとそれぞれが力を発揮できる場面が増えてきた。

・作業全般では特に初期のメンバーは9年が過ぎ、良い意味で風格が出てきた。集中し落ち着いて作業に取り組める人が増えてきている。今後、モチベーションをどこに持ち高めていくのか、本人の特性と思いの部分をどこで折り合

いをつけて取り組んでもらうのが課題になっている。

【就労支援】

1名の方が実習の後、実習を行ったスーパーに就職した。今後、自分の生活を作っていくために定着支援等が必要で、支援センターわかば・就労生活支援センターエールに協力してもらいながら、必要な支援を行っていく。

【生活支援】

身辺自立の支援・介助が依然多く、障害の重度化や高齢化、見守りや移動の際の介添いなどが増えている。特に移動に係る制約は外での活動の選択肢が狭くなるため、工夫が必要になる。

4. 活動報告

○年間行事

花見・愛媛県障害者スポーツ大会・社会見学(年2回)・一泊旅行(山陰地方の旅)・もちつき・新年会

○きょうされんグッズデザインコンクールに向けた絵画の作成(1名が入選)○二十歳を祝う会(対象者1名)

5. 個別支援計画の作成・説明の為の面談

計画相談が全ての利用者に係るようになってきた為、そのモニタリングや更新と合わせて面談を行っている。今後は必要に応じて他事業(ヘルパー等)と一緒に رفتり、個別支援会議が増えてくるため、相談支援専門員との連絡調整が増えてくると思われる。

6. 職員の研修・会議

○職員会

(作業や行事の協議・検討、個別支援に係る確認・調整等)・・・月1回

○学習会

(障害者福祉に係る情勢や制度、個々の特性に応じた支援のあり方の学習)・・・月1回

○きょうされんの開催する各講演会や研修会の参加

○必要に応じて他施設見学や行政・各障害者福祉に関わる講演会や研修会の参加

7. 健康管理

メンバーの健康管理の為に以下の検査を希望に応じて実施した。…レントゲン検診・尿検査5月、歯科検診7月、血液検査8月、精神科検診9月、内科検診3月

8. 防災訓練

火災や地震についての知識や意識を高め、迅速に避難できるように訓練を行った。…火災避難訓練(6月・2月)、地震避難訓練(9月)